

情報産業労働組合連合会

中央執行委員長 野田三七生様

「愛の基金」助成決定を受けて

昨年に引き続き、私どもの活動に対して助成していただけるとの事、誠に感激しております。本当にありがとうございます。

昨年度いただきました助成金にて、ふたつの名取の物語「多賀丸、海を渡る」を増刷し、愛媛・宮城の両名取地区の子どもたちに絵本を届けることができました。宇和島市長・伊方町長始め、たくさんの方から感謝の言葉をいただき、マスコミにも数多く取り上げていただきました。

今年度は昨年度実績から 40%減の予算で活動を開始したのですが、震災後 7 年を過ぎ次々と助成金は打ち切れ、3 年続けた岩沼市玉浦での総合イベントは休止せざるを得ませんでした。それでも隣接する亘理町住民より、奥州藤原氏初代、藤原清衡生誕の地である事を是非とも子どもたちに伝えたいという要望をいただき「有かあさんと清寿丸」という絵本を住民と一緒に作り上げることができました。また、絵本普及活動では初めて子どもたちが自ら「読み聞かせ」を行なうワークショップを開催することができました。大きなホールのスクリーンの前で、子どもたちが役になりきり、音楽を演奏しながら展開される数々の絵本に集まった地元の人々は釘付けでした。

今年度もマスコミにはたくさんの活動を取り上げていただき、そして地域を紹介する二時間のラジオ特番ではコーディネーターを務めさせていただくなど活動の幅を広げました。しかし、予想通りというか、やはり半年で資金を使い果たしてしまいました。

「昨年は愛の基金で年を越せたけど、今年も愛のサンタさんが来ないかなあ」と経理スタッフがぼそっとつぶやいた時に「愛の基金」助成決定の報が入りました。「サンタさんはやっぱりいる！これで止まっていた今年度の活動もまた始められる！」ひと足早いクリスマスプレゼントにスタッフは大騒ぎでした。

「郷土愛」それは情報を最適なツールで伝える事から育まれると私たちは考えています。これからも世代間交流を進めながら大切な「情報」を子々孫々伝えていきたいと思っています。「愛の基金」のお陰で今年も活動を継続できる目度がありました。

最後になりましたが、「今年も助けていただいた、ありがたい。」というのが本音です。何度も繰り返すようですが、本当に、ほんとうにありがとうございました。

特定非営利活動法人 生涯学習実践塾
理事長 水戸 正美